

令和5年度 食品ロス削減推進協議会 議事要旨

1 日 時

令和6年2月16日（金） 13:30～15:00

2 場 所

県庁舎 議会棟1階 第1会議室

3 出席者

○委員11名（委員14名のうち3名欠席）

氏 名	所属団体・役職等
デュアー <small>たかこ</small> 貴子	東海学院大学健康福祉学部学部長 教授
<small>まえざわ</small> 前澤 <small>しげのり</small> 重禮	岐阜大学社会システム経営学環特任教授
<small>きたの</small> 北野 <small>しげき</small> 茂樹	岐阜県食品産業協議会会長
<small>なかしま</small> 中島 <small>まさたか</small> 正孝	全国農業協同組合連合会岐阜県本部管理部長
<small>あきもと</small> 秋元 <small>たけし</small> 武	(株) バローホールディングス 管理本部サステナビリティ推進室長
<small>ふなだ</small> 船田 <small>じゅん</small> 淳	岐阜県商工会議所連合会 岐阜商工会議所事務局長
<small>やまもと</small> 山本 さちよ	岐阜県食生活改善推進員協議会副会長
<small>わたなべ</small> 渡辺 <small>あきなお</small> 顕直	(福) 岐阜県社会福祉協議会生活支援部長
<small>いとう</small> 伊藤 <small>りさ</small> 理佐	生活協同組合コープぎふ組合員理事
<small>ごとう</small> 後藤 <small>みほ</small> 美保	(公社) 岐阜県栄養士会副会長
<small>ののむら</small> 野々村 <small>せいこ</small> 聖子	岐阜市環境部資源循環課長

○事務局（岐阜県環境生活部）

高橋 一雅 環境生活部次長

池戸 克成 環境生活部県民生活課長

河田 里美 環境生活部県民生活課消費生活対策監

古川 有里 環境生活部県民生活課課長補佐兼消費生活安全係長

4 議事要旨

(1) 令和5年度推進施策実施状況について

事務局から令和5年度推進施策実施状況の説明を行った後、委員との意見交換を実施。

【委員】

- ・食品ロス削減は、食品を作り過ぎない、買い過ぎないということが重要。しかしながら、一方で経済活動から販売促進・売上増大を目指し、一方で食品を買い過ぎては駄目ですよというのは、全体で見るとアクセルとブレーキを同時に踏んでいるような状態だと思う。その相反する状態を解消できる、県民に分かりやすい対応策を考えていくことが大切だと思う。

【委員】

- ・全国農業協同組合連合会岐阜県本部だが、資料1の6頁に「JA及びフードバンク団体等を対象とした意見交換会の開催」が令和6年3月に予定と記載されているが、承知していないので、この内容について教えていただきたい。

【農産物流通課】

- ・農産物の生産と流通に携わる各JAの担当者、また、フードバンク活動を通じて食品を生活困窮者や子ども食堂に提供する活動をしている方々に集まっただき、取り組みや考え等を議論いただくもので、昨年度に続き2回目の開催を予定している。

【委員】

- ・資料1の7頁の「郡上北高校の取り組み」の写真でピンクのエプロンが岐阜県食生活改善推進員協議会の会員で、私は恵那地域がホームだが、コロナ禍以前は恵那高校等で同様の活動をしていた。この写真を見て、そろそろこういう活動がしたいと思った。
- ・保育園やこども園等を訪問すると食べ物を粗末にする幼い子どもを見かける。小さい頃から親子でもったいないを習慣づけるような食品ロス削減の啓発活動ができればと思う。

【委員】

- ・生活協同組合コープぎふでは、フードバンクと提携するだけでなく、フードドライブの取り組みを2021年からやっている。組合員からサポーターを募集して、月に1回フードドライブをやっているところもある。
- ・資料1の3頁で紹介のあったポスターやチラシをコープぎふにも配布していただきたい。コープぎふの店舗に貼付、配置してサポーターをはじめ多くの方々に食品ロス削減の啓発をしたい。

【委員】

- ・岐阜県社会福祉協議会では資料1の5頁の「岐阜県子ども居場所応援センター」を県から受託して実施している。令和4年度からスタートしてサポーターの登録状況は、現在、163団体、うち企業等が34、居場所サポーターは129となっており、約8千人の子どもの参加を得て、

食材を提供している。2年間でサポーター数も増え、子どもの居場所の数も定かではないが190ともいわれている。

- ・フードドライブについてもバローと一緒にF C岐阜のホームゲーム開催時に岐阜メモリアルセンターで啓発活動を行っている。

(2) 令和6年度推進施策について

事務局から令和6年度推進施策の説明を行った後、委員との意見交換を実施。

【委員】

- ・2023年度のバローホールディングスの食品ロス削減推進の活動状況は、フードドライブのイベントの開催は、F C岐阜のホームゲーム会場で15回、本年1月17日に岐阜県庁舎で行われたSDGs推進セミナーで開催した1回を含め30回開催した。ただ、こういったイベントでは単発で県民の日頃の消費行動の変化には繋がらないため、これも県社会福祉協議会と連携して、当社店舗に常設のフードドライブポスト設置を展開しており、現在5つの市に10基展開した。来週、岐阜市内の店舗に長良中学校の食品ロス削減啓発授業と連動して生徒がデザインしたポストを置く予定をしている。昨年10月に恵那市社会福祉協議会、コープぎふ、岐阜県、バローと連携して、恵那市にフードドライブポスト5基を同時に設置した。今後もコープぎふと連携してフードドライブポストの設置の取組みを加速していきたい。
- ・2024年度はF C岐阜のホームゲームの第1回目からフードドライブのイベントを開催する予定で年間19回の開催を予定している。また、岐阜県の食べきり運動と連動して昨年10月の食品ロス削減月間に食品ロス削減に向けた食品販売機を県庁舎の2階と9階に設置し、売る側として、生産者が丹精込めて作った食品は絶対に売り切るという固い意思を示すために売り切れない食品を県庁舎に持ち込んで、県民の皆さん、職員の皆さんに買ってもらうという活動をしている。これらの活動が県全体に広がっていけばよいと考えている。
- ・資料3の令和6年度の推進施策で「支援」とあるが、待つ姿勢のような気がしてならない。昨年度の県内のフードドライブ実施市町村数は全体の4分の1にすぎない。1人でも参加できる活動がフードドライブであり、県庁舎でもイベント・セミナーの時だけではなく定期的にやっていただきたい。県庁、市町村が本気でやる姿勢を見せないと、支援しますという姿勢では活動は広がっていかないと。本日、お集まりの皆さんで盛り上げていきたい。

【委員】

- ・資料1の2ページの■進捗管理指標一覧の2で事業系食品ロスの発生量が2000年度と比較して2021年度では4割程度減っているが、社会経済活動が戻ってきた2023年度の数値が気になる。
- ・県民の意識も変わってきて、宴会の機会が戻ってきたが、以前に比べて出されたものをしっかり食べているように思う。ただ、1つ課題なのが立食で、何百人単位で参加する立食の場合、料理が残ってしまうケースが多い。これについては、主催者が工夫すれば食品ロスの削減の余地があると思う。

【委員】

- ・岐阜県食品産業協議会は、いろいろな部門があり、先ほど前澤委員から発言があった経済的な問題と食品ロスの問題の相反する問題を抱えている。私は菓子屋で進物やしきたりの問題もしかり。ただ、コロナ禍の影響で3～4年前から進物やしきたりの考えは以前に比べ薄れてきている。食品ロスと経済の問題で我々の業界は大変な思いをしている。今の子どもたちは好き嫌いが多く、学校給食を残すことが多いと思うので、好き嫌いをなくして完食を進めるような教育もいいのではないかと思う。

【委員】

- ・岐阜県栄養士会の副会長として出席しているが、本務は栄養教諭なので、今日も学校で給食を食べさせて来た。好き嫌が多いという指摘は確かだが、学校給食は好き嫌いをなくすためというよりもバランスよく食べることが大事であることを教えるのが一番の目的で、幼い子どもは給食で初めて食べるものが多いので、一口食べて残すこともあるが、それを、私たち栄養教諭は食品ロスと考えていない。これだけの栄養価を取ってくださいと話はするが、やはり人間誰でも初めて食べる物は怖いと思うので、学校給食で少し残食があっても、食品ロスとは少し違うと思っている。発達段階に応じてバランスよく食べることを教えるが、それが完食につながるわけではないので食品ロス削減について教えるのはなかなか難しい。ただ、日本は食料自給率が低く、食糧を海外に委ねているにもかかわらず1日に茶碗一杯分の食糧が捨てられている現状を示して食品ロス削減について教えている。
- ・私は、岐阜市在住で防災備蓄品の有効利用活用で、岐阜市役所からアルファ米の賞味期限が近付くと廃棄するという連絡がくるので、毎年9月に災害食を作って地域の方々に試食してもらっている。また、先日、災害支援で能登に行き避難所を3日間で8か所回ったが、どこも山のように同じような食料品が残っている。レトルトカレーにご飯だけではタンパク質と野菜が不足して体調を崩す方がいる。高齢化率が高い地域なので、タンパク質を取らないといけないということで、レトルトカレーにサバ缶のサバを入れて食べてもらおうとか、そこにある食材で、食べる方々に合った献立を考えた。被災地に限らずそういう提案が必要だと思う。

【委員】

- ・岐阜市では基本的に給食の残渣は堆肥化して販売している。私は、資源環境課でゴミ減量行政を担当している。その立場で食品ロス削減に携わっているが、食品ロス削減はいろいろな分野に跨る問題で、今日の会議でも県の担当の方がいろいろな部署から出席しているのは、それを物語っていると思う。
- ・今年度から市民にフードドライブを知っていただきたい、参加していただきたいという思いで、市のホームページにフードドライブの一覧を掲載する取り組みを始めた。
- ・食べきり協力店、協力企業にフードシェアリングについてアンケートをしており、食品をいろいろな形でまわしながら、食品ロスを減らしていくという取り組みを皆さんと取り組んでいきたいと考えている。

【委員】

- ・食品ロス削減についての県の取り組みとしてはいわゆる組織対応と個人対応に大きく分けることができる。組織対応は、それぞれの組織がしっかりやっていくことで、仕組みとしてできると思う。一方、個人となると、これは個人の意思によることになり、その個人レベルをもう1つ分割すると、食品を購入する前の気持ちと、購入後の気持ちに分けることができる。購入した後の気持ちは、余ったら捨てるのではなく、フードドライブに持っていき、そういったことをしなければいけないということを進める。一方、難しいのは購入前で、本能、購買欲がある。また、経済活動を活性化しなければならない。そこを規制することは県でも多分できない。企業も本当にその食品が必要ですかといったポスターは多分作れない。そうするとやはり、購入後の県民の行動に対して施策を練っていくことになる。余分に食品を購入したことへの罪悪感に配慮した個人対応の施策、フードドライブに参加することにより、食品を無駄にすることなく役に立ったし、経済活動にも貢献できた。そういうアプローチで県民のフードドライブへの積極的な参加により自分も県の施策に貢献しているといった自己達成感みたいなものを呼び起こす、そういうスローガンみたいな施策ができればよいと思う。

【委員】

- ・私の大学では、学生が規格外野菜カフェを4月にオープンし、食品ロスから堆肥を作って野菜を育て、出荷できない規格外野菜でアフタヌーンティーセットを出している。来場者をお願いした食品ロス削減に関するアンケート約8千8百人分を集計したところ、食品ロス削減の取り組みが浸透してきているのか約9割の方がフードドライブ等、食品ロス削減に関する意識が高いという結果が出て驚いている。特に、小学生、中学生、高校生のほとんどは、もう完璧なぐらいで7年前から食品ロス削減の予備教室をやっているが、以前に比べて意識が高まり、こういう取り組みの成果だと思っている。ところが、一番認知が低い世代が30歳代、40歳代で若い世代よりちょっと上の世代が非常に食品ロス削減の意識、認知度が低かった。もちろん学校教育は重要なので継続が必要だと思うが、そういった世代にも目を向けて、何か、取り組みができたらいと思う。
- ・フードドライブでいろんな食材が集まってくるが、実際に配分され、そこで食品ロスになることはないのかどうか教えていただきたい。

【委員】

- ・バローではフードドライブポストにお客様から買い過ぎとか使いきれなかった食料品、贈答品を含め、寄付をいただいた食品を必要な方々にお渡ししている。また、希望する子ども食堂には当社の店舗で賞味期限が間近になった食品や棚替等により商品を変えた食品を使っている。子ども食堂に対して、ここから食品ロスが出ないようにとお願いしている。子ども食堂もその重みを我々と同様に思っており、食品1つ1つのありがたさというのは子ども食堂の代表の方が最も認識されていて、子ども一人ひとりにも伝えていて、子ども食堂で提供される部分とフードパントリーでお配りする部分があるが、例えばわさび10本とかドレッシング20本とか同じものをまとめて渡すこともあるが、ありがたく受け取ってもらい、子ども食

堂の間で物々交換するなどして余すことなく使い切ってもらっているということで、結論として、食品ロスが発生していないということになる。